

平成 27 年度

(平成 27 年 (2015 年) 4 月 1 日～平成 28 年 (2016 年) 3 月 31 日)

事業報告書

平成 28 年 5 月

公益財団法人浜松国際交流協会

目次

事業実施の背景と取り組み	3
事業報告	
多文化共生のまちづくり	
1. 相談事業	5
①外国人市民のための生活相談（市委託：多文化共生センター事業）	
②ワンストップ相談コーナーの運営（他機関連携事業）	
③出張相談（市委託：多文化共生センター事業）	
④中国残留邦人支援事業（市委託事業）	
⑤法律相談（自主事業）	
⑥行政書士相談（自主事業）	
⑦税務相談（自主事業）	
⑧メンタルヘルス相談（市委託事業）	
⑨ソーシャルワーク研修（市委託：多文化共生センター事業）	
⑩コミュニティ・エンパワメント（市委託：多文化共生センター事業）	
2. 日本語学習支援事業	12
①外国人市民を対象とした日本語教室（市委託：外国人学習支援センター事業）	
②学習支援ボランティア養成講座（市委託：外国人学習支援センター事業）	
③地域日本語学習支援事業（市委託：外国人学習支援センター事業）	
④浜松版地域日本語教師育成検討事業（文化庁委託）	
3. 外国につながる子ども支援事業（市委託：外国人学習支援センター事業）	19
①外国人子ども学習支援ボランティア活動コーディネート	
②外国につながる若者の学び直し教室	
③外国人の子どもの不就学ゼロ作戦	
4. 地域共生事業（市委託：多文化共生センター事業）	22
①各地域への個別支援	
②地域共生自治会会議	
5. 多文化防災事業（市委託：多文化共生センター事業）	23
①災害時多言語支援センター設置訓練	
②モデル地区への入り込み支援	
③災害時の情報提供	
④災害時多言語ボランティア養成研修（自主事業）	
6. 多様性を生かしたまちづくり事業（市委託：多文化共生センター事業）	26
①はままつ多文化共生 MONTH 事業コーディネート	
②文化・スポーツ紹介事業	
③地域活性化セミナー	

グローバル感覚に優れた人づくり

1. グローバル人材の育成と活用 29
 - ①地球人教育出前講座及びコーディネート（市委託：多文化共生センター事業）
 - ②国際理解教育講座（自主事業、市委託：多文化共生センター事業）
 - ③第6回はままつグローバルフェア（自主事業）
 - ④ハロー！はままつフェアトレード DAY 2016（自主事業）
 - ⑤多文化体験・交流事業（市委託：外国人学習支援センター事業）
2. 国際交流・理解のための外国語講座 36
 - ①国際交流のための外国語講座（自主事業）
 - ②国際交流のための外国語サロン（自主事業）
 - ③外国人支援者のためのポルトガル語講座（市委託：外国人学習支援センター事業）
3. 国際交流・理解のためのイベント(自主事業) 39
 - ①ウエルカム・イベント
 - ②親子で English
 - ③多言語 de 世界のクッキング体験
 - ④第5回ポルトガル語スピーチコンテスト
 - ⑤ブラジルの格闘技カポエイラ&先住民のサンバショー
 - ⑥ブラジル・カポエイラ体験講座
 - ⑦MEET & GREET
 - ⑧ブレット先生と漢字国語大会
 - ⑨私たちが見たバングラデシュを語る会
 - ⑩報道では伝わらないシリア難民の真実
 - ⑪地域おこしは地球おこし
4. 担い手の育成：ボランティア活動支援事業（自主事業） 42
 - ①HICE ボランティアバンクの運営
 - ②ホームステイ・コーディネート
5. 担い手の支援：国際交流活動支援事業 43
 - ①多文化共生・国際交流推進事業費補助金の交付（浜松市補助金）
 - ②天竜地域事業（市委託：外国人学習支援センター・自主事業）
 - ③セミナールームの活用（市委託：多文化共生センター事業）
 - ④多文化共生・国際交流活動支援事業（市委託：多文化共生センター事業）
6. 情報提供事業 47
 - ①機関紙 HICE NEWS の発行（自主事業）
 - ②ホームページの運営（自主事業）
 - ③Facebook の運用（自主事業）
 - ④HICE info メールによる情報配信（自主事業）
 - ⑤CIR NEWS の配信（自主事業）
 - ⑥情報カウンターの設置（市委託：多文化共生センター事業）

事業実施の背景と取り組み

現在、外国人材の受入れは、少子高齢化による人口減少や産業構造の変化が進む中で、国家成長戦略の一環として語られている。特に介護分野での在留資格の拡大、建設分野での技能実習生の拡大による人手不足の解消が検討されている。戦略的・本格的な外国人受け入れ社会をにらみながら、1990年から四半世紀の経験を持つ浜松市をはじめとする外国人集住都市のこれまでの取り組みを今後どのように応用していくか、国レベルでも注目されている。しかし、人を受け入れるということは丸ごとの生活や人生を受け入れることである。特に地域で共に暮らすということは生活の全ての面に関わることであり、多方面にわたるコーディネートが重要になる。そして、地域で活動する当協会に求められるのは様々な機関とより一層連携を強化しながらきめ細かななコーディネートをしていくことであろう。

浜松市では平成27年度は「多文化共生都市ビジョン」の3年目、「国際戦略プラン」の2年目であり、当協会においてもそれらの基本方針を念頭に事業を展開している。

当協会における平成27年度の重点事業は、「浜松版地域日本語教師育成検討事業」「多文化防災事業」「多様性を生かしたまちづくり事業」「不就学ゼロ作戦事業」「若者のためのはじめてのほんご」であった。

「浜松版地域日本語教師育成検討事業」は文化庁委託事業として行い、当協会が平成24年度に開発した浜松版日本語コミュニケーション能力テスト（HAJAC）のできる人材養成を行った。生活者としての外国人に効果的に日本語コミュニケーション能力を向上させることのできる教師の養成は始ったばかりであるが、成果として、このような方向の日本語教育の重要性とそのための日本語教師の確保について民間企業や行政と課題意識が共有できたことは大きい。

「多文化防災事業」では、自治体国際化協会（クレア）からの助成金で「災害時多言語ボランティア養成」を行った。日本語能力の高い7か国の在住外国人と複数回にわたり体験研修等を行うことで災害時にリーダーとして活動するという自覚を高めてもらうことができた。今後の彼らとのネットワークを継続しながら災害時訓練を行っていくことが大切になる。

「多様性を生かしたまちづくり事業」としては、外国にルーツを持つ大学生らが定時制高校での出前授業を行い、ロールモデルとしての役割を担う事業が確立しつつある。次世代を担う外国にルーツを持つ若者が人材として活躍してきていることを感じさせるものとなった。

一方、「不就学ゼロ作戦事業」では、教育義務のない外国籍の子どもへの対応の難しさが際立った。当協会だけでなく外国人学校や教育委員会、福祉機関や地域など多くの人や機関との連携のもと取り組んでいく体制を強化する必要がある。また、就学年齢を超えた若者を対象とした「若者のためのはじめてのほんご」では、日本語教育を必要とする若者のニーズを確認できた。社会を担う次世代への基礎的な支援策として次年度は定常的な講座として行っていきたい。

組織面としては、中期計画の2年目を迎えたが、安定して取り組むことができた。組織内では研修制度を充実させることで専門人材が育ってきているので、その職員の定着を念頭に、引き続き体制を整えて浜松型多文化共生都市の実現のために努力していきたい。

公益 1 多文化共生のまちづくりと グローバル感覚に優れた人づくり

多文化共生のまちづくり

1. 相談事業

多言語生活相談、ワンストップ相談、中国残留邦人支援、法律相談、税務相談、メンタルヘルス相談、ソーシャルワーク研修、コミュニティ・エンパワメント

2. 日本語学習支援事業

日本語教室、学習支援ボランティア養成講座、地域日本語学習支援事業、浜松版地域日本語教師育成検討事業（文化庁委託 223 万円） **★重点事業**

3. 外国につながる子ども支援

学習支援ボランティアコーディネート、学び直し教室、不就学ゼロ作戦

4. 地域共生事業

各地域の個別支援、地域共生自治会会議

5. 多文化防災事業 **★重点事業**

災害時多言語支援センター設置訓練、モデル地区への入り込み支援、災害時の情報提供、災害時多言語ボランティア養成研修（クリア補助金 117 万円）

6. 多様性を生かしたまちづくり **★重点事業**

多文化共生 MONTH 事業、文化・スポーツ紹介、地域活性化セミナー

グローバル感覚に優れたひとづくり

1. グローバル人材の育成と活用

地球人教育出前講座、国際理解教育講座、グローバルフェア、多文化体験

2. 国際交流と国際理解の推進

外国語講座、外国語サロン、支援者のためのポルトガル語講座、国際交流・理解のための各種イベント

3. 担い手の育成と支援

ボランティアバンク運営、ホームステイ、HICE 補助金、天竜地域事業、セミナールームの活用、活動支援事業

4. 情報提供事業

HICE NEWS、ホームページ、Facebook、info メール、CIR NEWS、情報提供カウンター

多文化共生センター

市受託 35,844 千円

外国人学習支援センター

市受託 42,830 千円

多文化共生社会の推進

事業報告

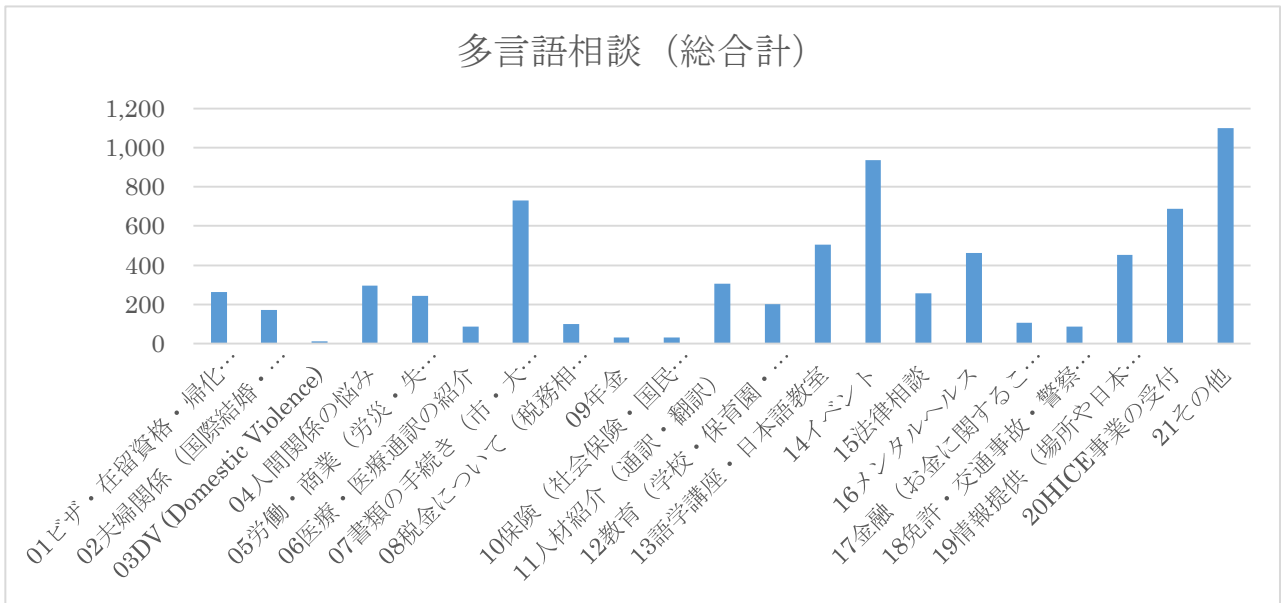
多文化共生のまちづくり

1. 相談事業 参加者数：延べ 9,074 人

① 外国人市民のための生活相談（市委託：多文化共生センター事業）

(7,084 件)

言語	曜日	時間	相談件数
ポルトガル語	火曜日～日曜日	9：00～17：00	3,141
スペイン語	日曜日	13：00～17：00	408
タガログ語	木曜日	13：00～17：00	715
中国語	金曜日	13：00～17：00	124
英語	月曜日～金曜日	13：30～16：30	209
日本語	月曜日～日曜日	9：00～17：30	2,487
合計			7,084



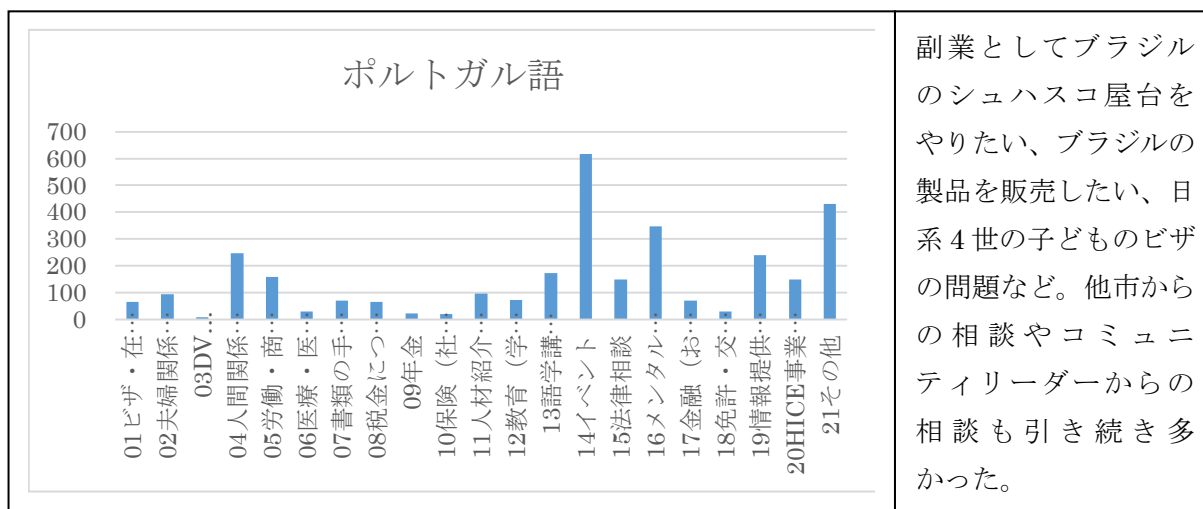
ビザ・在留資格	夫婦関係（離婚他）	DV (Domestic Violence)	人間関係の悩み	労働（労災・失業・起業）	医療・医療通訳の紹介	書類の手続き	税金	年金	保険（社会保険等）	人材紹介（通訳・翻訳）	教育（学校・保育園）	語学講座・日本語教室	イベント	法律相談	メンタルヘルス	金融（お金に関すること）	免許・交通事故	情報提供（場所など）	HICE事業の受付	その他
264	174	14	296	243	87	732	101	33	34	306	202	505	935	257	464	108	88	454	687	1100
合計 7,084 件																				

【相談内容・傾向】

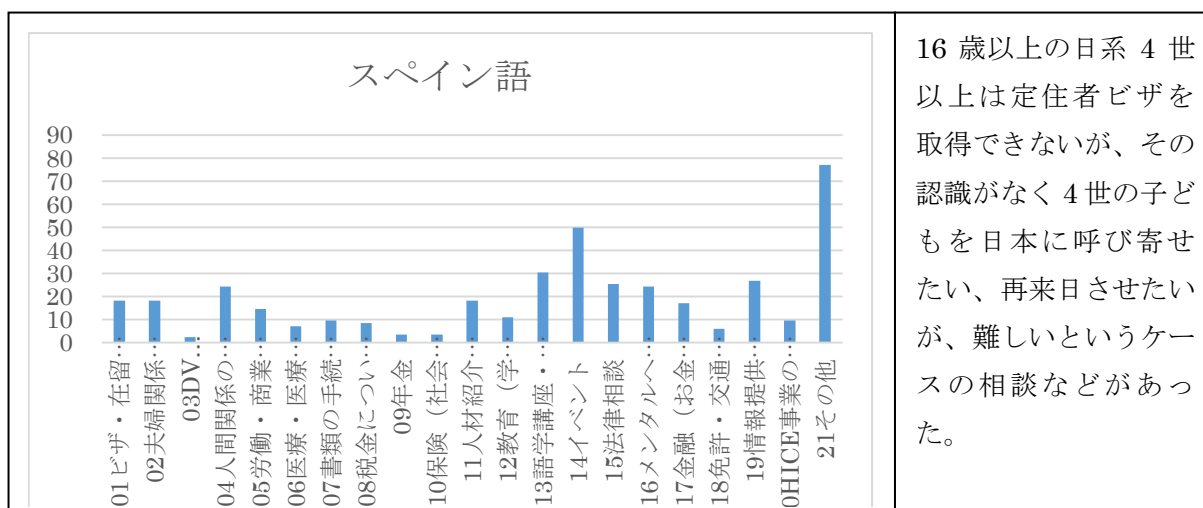
現在は、様々な窓口でポルトガル語やスペイン語の通訳が配置されているほか、居住年数が長くなり、日本人と同様のサービスを利用する外国人も多いため、通常の手続きや相談は直接担当窓口で行われている。しかし、問題がこじれたり、担当窓口で手に負えなくなった時に最後に多文化共生センターに回されてくるケースがある。その場合は、件数が少なくても手間がかかることが多い。

単純な情報提供で解決するような相談ではなく複雑なケースで何度も相談をしたり、同じ人が違うケースで何度も相談したりするなど、相談員との信頼関係が重要になってくることが多い。こうしたことより専門性の高い相談員を安定して確保することが重要である。

【各言語別の傾向】

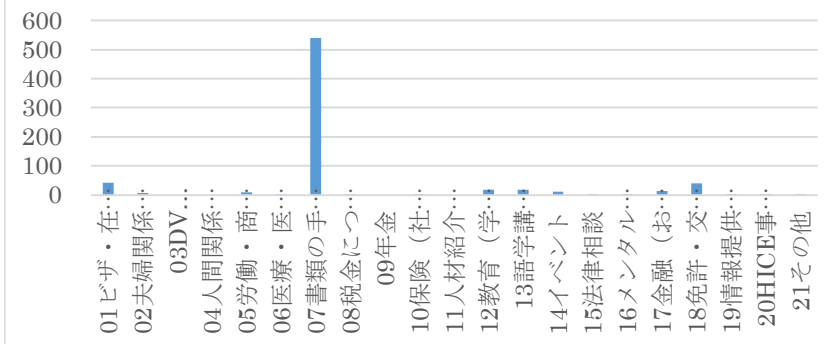


副業としてブラジルのシュハスコ屋台をやりたい、ブラジルの製品を販売したい、日系4世の子どものビザの問題など。他市からの相談やコミュニティリーダーからの相談も引き続き多かった。



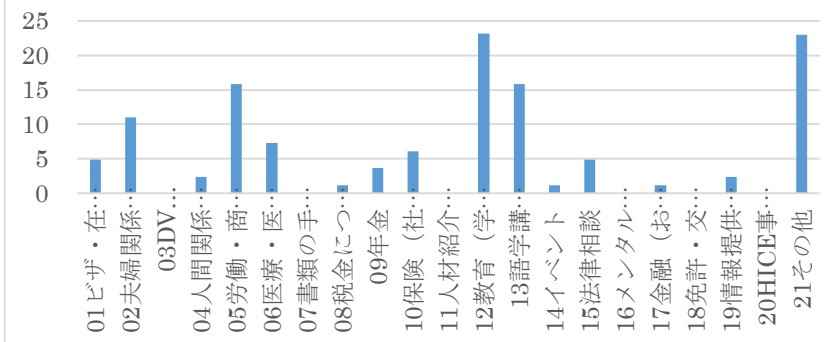
16歳以上の日系4世以上は定住者ビザを取得できないが、その認識がなく4世の子どもを日本に呼び寄せたい、再来日させたいが、難しいというケースの相談などがあつた。

タガログ語



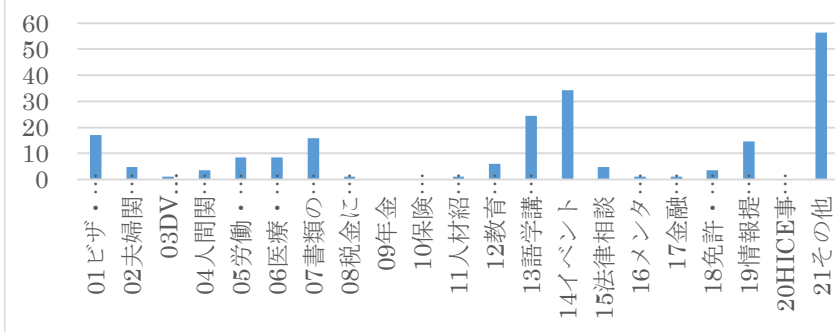
フィリピン大使館出張領事サービスを多文化共生センターで行っているため、その手続き相談が多い。フィリピンから義務教育年齢を超えて呼び寄せた子どもの教育の場がほしいという相談も多い。

中国語

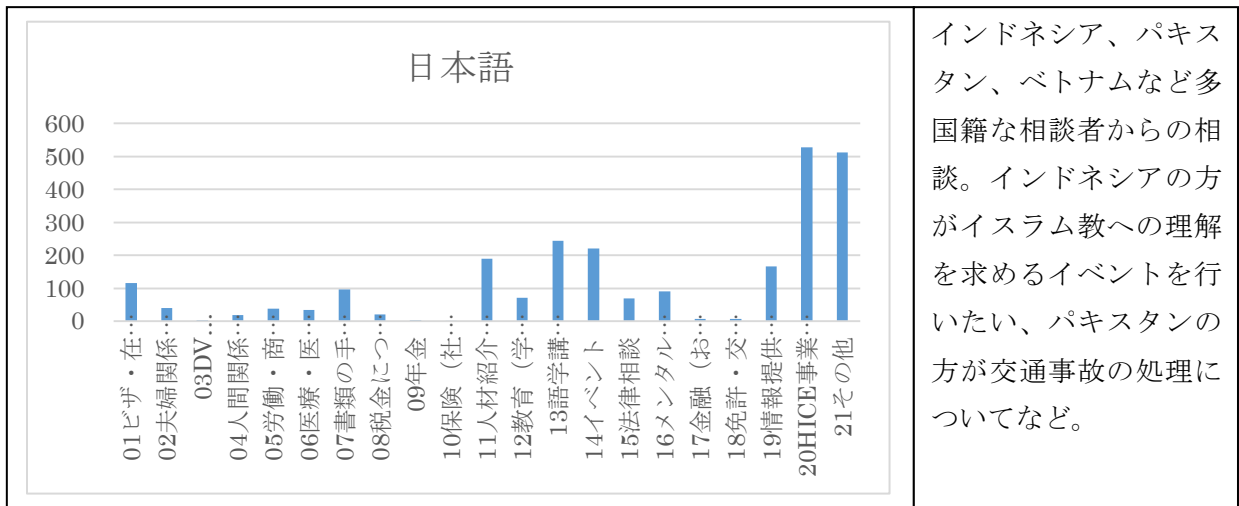


日本で子育てをする中国人の親から子どもの中国語保持についての相談、日本人男性と結婚している中国人女性から夫の死去後の遺産相続の相談、技能実習生からの不当解雇の相談などがあつた。

英語



英語圏やそれ以外の英語話者からの相談。日本語教室の情報を求めるものが多かった。英語を使って仕事をしたいという相談もある。



インドネシア、パキスタン、ベトナムなど多国籍な相談者からの相談。インドネシアの方がイスラム教への理解を求めるイベントを行いたい、パキスタンの方が交通事故の処理についてなど。

② ワンストップ相談コーナーの運営（他機関連携事業）（137 件）

入国管理局と連携して、それぞれ専門相談の窓口を配置した。

相談件数：延べ 137 件

③ 出張相談（109 件）

出張先 カトリック浜松教会（71 件）、コムニダーデ・プロフェチカ・ノーヴァ・アリアンサ教会（35 件）

ブラジル人託児所（2 件）、ブラジル人レストラン（1 件）

④ 中国残留邦人支援事業（市委託事業）（483 件）

中国在留邦人とその配偶者で、世帯の収入が一定の基準に満たない者に対し生活支援費を給付する際の業務補助、相談、通訳等の支援のために、相談員及び通訳を配置または派遣した。

■ 市内区役所（中・南・東・北）の福祉事務所に中国語による支援相談員 1 人を配置

日 時 週 4 日 13:00～17:00（1 4 2 日）

相談内容 日常生活、子どもの教育問題、日本語学習、就労相談など

相談件数 延べ 378 件

対 象 13 世帯 19 人

■ 医療機関等へ通訳を派遣

件 数 147 件

対 象 15 世帯 45 人

⑤ 法律相談（自主事業）（52 人）

毎月第 4 木曜日に弁護士による法律相談を行った（12 月を除く 全 11 回）。

相談者数 延べ 52 人

協 力 静岡県弁護士会、関東弁護士連合会（11 月の拡大法律相談）

⑥行政書士相談（自主事業）（17人）

毎月第2日曜日に日本での営業許可、国際結婚、会社設立、在留資格などの行政書士相談会を行った（8月から、2月を除く 全7回）

相談者数 延べ 17人

協力 静岡県行政書士会 西遠支部

⑦税務相談（自主事業）（60人）

日時 平成28年2月6日（土）9:30～16:30

内容 確定申告を必要とする外国人を対象に、通訳（ポルトガル語、スペイン語、タガログ語）をつけて、申告がスムーズに行えるように支援した。

参加者 相談者50人、通訳5人、税理士5人 合計60人

協力 東海税理士会浜松西支部

⑧メンタルヘルス相談（市委託事業）（897件）

ブラジル人心理士2人を配置し、ポルトガル語でのメンタルヘルス相談を行った。

■相談

日時 平成27年4月～平成28年3月 週5日 9:00～17:00

件数 延べ561件

内容 主な相談は、夫婦や家族関係の問題及び社会生活での人間関係と子育てに関することであった。再婚し新しい家族構成になり、その中で義理の父母や連れ子との関係の悪化などの相談も多かった。子どもや思春期を迎えた少年たちの場合、反抗の気持ちが学力低下や攻撃的な行動に表れたり、文化への不適應もストレスの原因となったりして、社会生活、職場や学校での生活にも影響していると考えられる。精神病理、身体及び精神虐待等は精神科へ繋ぎ、メンタルヘルスサポートを行っている。外国籍の患者が入院している精神病院、市の相談室、NPO 団体、生活自立相談支援センターとの連携もあった。

課題 昼間仕事をしている患者数人から夜にメンタルヘルス相談ができないかという声があり、どの程度ニーズがあるか来年度は試行を行う予定。これからも、メンタルヘルス相談窓口や同行通訳制度を多くの方が活用できるよう、システムについての説明が必要と考えられる。また、メンタルヘルスについて学ぶ機会を設けるとともに、現在カウンセリングを受けている方や精神科に通っている方を対象に交流会を行うことによって、同じような境遇の人がお互いに助けあう関係をつくることができると思われる。

■通訳派遣

精神科や発達相談関連の受診・相談に対し、専門家の通訳を派遣

通訳件数 延べ224件

内容 今年度は、精神科（入院を含む）の対応が増え、受診内容はアルコール依存症、自殺未遂、性的虐待の疑い、万引き等かなり重いケースがあった。

課題 通訳派遣サービスを利用する患者が HICE に電話をかけてくるケースが増えた。電話の相談内容は、診察日時変更、体調不良、薬の効果が無い、自殺未遂、家族の問題、行政機関や医療機関とのやりとりがうまく出来ない等。診察だけの通訳に留まらないのが現状である。

保護者は児童発達支援に使用する受給者証等の更新や有効期限について、病院又は福祉課へ提出する書類について戸惑うことがある。また、書類の名前が分からなく「何か紙をもらうように言われた」と言ってくることもある。発達に困難をかかえる子どもは、言語、眼科、OT(作業療法士によるリハビリ)、障害者支援センター(放課後等児童デイサービス)等にもまたがって支援が必要な場合が多く、医療場面での通訳のみでなく、ソーシャルワーカー的な支援のニーズが増えていると感じる。しかし、現状ではそこまでの対応をしている余裕はなく、通訳は出来るだけ医療機関に抑えている。

前年度と同様キャンセルが多かった(理由は保護者が受信日を忘れた、体調が悪い及び連絡無)。

入院している患者については、1週間に1回の通訳と、保護者との面談等があるので1人に対してかなりの時間が必要である。

■ペアレント・トレーニング指導者養成研修

今年度は、25、26年度のペアレント・トレーニング研修を受けた10名講師及びスタッフとなり「発達に困難をかかえる子どもたちへのかかわり方講座」を実施した。参加者は公募により募集(教育相談支援センター、子ども支援協会、シンエイランド、ブラジル人学校などにパンフレットを配り、電話でも呼びかけた)。講座は日本語で行うものとポルトガル語で行うものを1回ずつ、合計2回行った。その後、受講者の中でもう少し内容を深めたい人を対象に発展講座を3回行った。

今回の講座により多くの指導員、支援員、サポーターに発達に困難をかかえる子どもたちへのかかわり方を理解してもらい、現場で役立ててもらうことが期待される。また、25、26年度のペアレント・トレーニング研修を受けた研修を受けたスタッフのスキルアップもできた。参加人数も多く、設定された時間をかなり超えるほど質問や情報交換があった。

ペアレント・トレーニング研修を受け、実際に実施するまでには研修を重ねる必要があるため、これからも保護者向けに研修を行いながら、スタッフの研修を実践的に行う必要がある。また、ペアレント・トレーニング講習を受けて実際に実施するためにはある程度の日本語能力とスキルが必要とされる。

目的 今回の講座により多くの指導員、支援員、サポーターに発達に困難をかかえる子どもたちへのかかわり方を理解してもらい、現場で役立ててもらうことが期待される。また、研修を受けたスタッフのスキルアップもできた。参加人数も多く、設定された時間をかなり超えるほど質問や情報交換があった。

傾向 ペアレント・トレーニング研修を受け、実際に実施するまでには研修を重ねる必要があるため、これからも保護者向けに研修を行いながら、スタッフの研修を実践的に行う必要がある。また、ペアレント・トレーニング講習を受けて実際に実施するために

はある程度の日本語能力とスキルが必要とされる。

日 時 7月4日、12日、9月5日、12日、26日 計5回
 参加者 基礎編（日本語）7月4日：講師1人 参加者26人
 基礎編（ポルトガル語）7月12日：講師3人 アドバイザー1人 参加者26人
 発展編（3回）9月5日、12日、26日：アドバイザー1人 スタッフ6人
 参加者計26人 延べ90人

■メンタルヘルスに関する啓発講習会（小集団活動）

浜松いのちの電話のポルトガル語相談員を対象として、メンタルヘルスに関する研修会を実施。

	テーマ	場 所	参加者
11月28日	統合失調症	浜松いのちの電話	3人
12月19日	自閉症スペクトラム	浜松いのちの電話	7人
1月23日	エクセプションナル心理学Ⅰ	浜松いのちの電話	8人
1月17日	エクセプションナル心理学Ⅱ	浜松いのちの電話	4人
合計			22人

⑨ソーシャルワーク研修（市委託：多文化共生センター事業）（105人）

内 容 通訳や相談員が、多種多様な通訳場面や相談に対応するために、専門的知識を習得し、外国人市民の生活支援にあたるためのノウハウや心構えを学ぶ研修を行った。

対 象 各機関で外国人の通訳や相談にあたるバイリンガル者

日時	テーマ	場所	参加者数
7月11日（土） 14:00～15:30	浜松市の防災対策について（浜松市危機管理課）	多文化共生センター	43人
8月26日（水） 10:00～12:00	窓口で必要な法律知識について（弁護士 外山弘幸）	多文化共生センター	19人
1月13日（水） 19:00～21:00	医療通訳研修（地域医療センター副院長 矢野邦夫）	地域医療センター	43人
合計			105人

⑩コミュニティ・エンパワメント（市委託：多文化共生センター事業）（130人）

内 容 各国の外国人コミュニティのニーズに合わせて、日本社会のしくみ等を知る研修を通訳をつけて行った。

対 象 在住外国人一般

5月16日（土） 10:00～11:30	（ブラジル人対象） 調停による解決方法 （ブラジル人弁護士）	クリエート浜松4階 特別会議室	30人
-------------------------	--------------------------------------	--------------------	-----

7月5日(日) 14:00~16:00	(フィリピン人対象)労働者の権利と義務及び税金の還付について(法テラス浜松弁護士)	県営浜北団地集会所	13人
7月19日(日) 9:30~12:00	(フィリピン人対象)離婚手続きについて(フィリピン人弁護士)	多文化共生センター	28人
11月29日(土) 14:00~16:00	(ブラジル人対象)交通安全と保険(外国人交通安全指導員、オフィスマリーン)	多文化共生センター	34人
3月13日(日) 13:30~15:30	(ベトナム人親子対象)防災ワークショップ(NPO法人はままつ子育てネットワーク「ぴっぴ」)	三方原協働センター	25人
合計			130人

2. 日本語学習支援事業 参加者数：延べ12,646人30件

①外国人市民を対象とした日本語教室(市委託：外国人学習支援センター事業)

(5,775人)

在住外国人に対して日本語支援を行う地域日本語教室。ひらがな、カタカナ、初級レベルの漢字、読み物を学ぶかな・漢字クラス、日常生活を行う上で必要な日本語コミュニケーション能力を学ぶ初級クラス、日本語の基礎的なルールを学ぶ文法クラス、日本語能力試験合格を目指した検定クラスを開催。

協働団体：With U-Net

読み書きクラス、初級クラス、文法クラス

第1期	(受講者数 延べ1,736人)			
	講座名	回数	日付	受講者数
読み書きクラス	ひらがな・カタカナ①	12	4月13日~5月11日	112
	ひらがな・カタカナ②	12	5月12日~7月21日	181
	生活漢字	10	5月16日~7月18日	61
	検定漢字	20	5月13日~7月16日	160
	読み物	10	5月15日~7月17日	109

初級クラス	レベル0	10	4月15日～5月11日	88
	レベル1	20	5月12日～7月17日	248
	レベル2	20	5月12日～7月16日	291
	レベル3	20	5月13日～7月17日	157
	実践	20	5月11日～7月15日	141
文法クラス	基礎文法	10	5月15日～7月17日	188

合計 1,736

第2期	(受講者数 延べ1,776人)			
	講座名	回数	日付	受講者数
読み書きクラス	ひらがな・カタカナ①	12	7月29日～8月31日	113
	ひらがな・カタカナ②	12	9月1日～11月19日	134
	生活漢字	10	9月5日～11月7日	60
	検定漢字	19	9月2日～11月11日	237
	読み物	10	9月4日～11月6日	98
初級クラス	レベル0	10	8月3日～8月31日	99
	レベル1	20	9月1日～11月21日	217
	レベル2	20	9月1日～11月21日	269
	レベル3	20	9月2日～11月21日	156
	実践	20	9月2日～11月21日	144
文法クラス	基礎文法	10	9月4日～11月6日	248

合計 1,776

第3期	(受講者数 延べ2,001人)			
	講座名	回数	日付	受講者数
読み書きクラス	ひらがな・カタカナ①	12	11月20日～12月18日	229
	ひらがな・カタカナ②	12	1月12日～3月22日	151
	生活漢字	10	1月9日～3月13日	94
	検定漢字	20	1月13日～3月24日	200
	読み物	10	1月15日～3月18日	108
初級クラス	レベル0	10	11月27日～12月18日	164
	レベル1	20	1月12日～3月18日	264
	レベル2	20	1月12日～3月22日	266
	レベル3	20	1月13日～3月18日	209
	実践	20	1月13日～3月23日	190
文法クラス	基礎文法	10	1月15日～3月18日	145

合計 2,001

日本語能力検定試験対策クラス(受講者数 述べ 262 人)

	期	回数	日付	受講者数
日本語能力 試験クラス (N4)	第2期(後半)	10	4月16日～7月2日	48
	第1期	20	7月16日～12月3日	137
	第2期(前半)	10	1月8日～3月12日	77
合計				262

総合計	5,775
-----	-------

②学習支援ボランティア養成講座

(市委託：外国人学習支援センター事業) (2,117 人)

■日本語ボランティア養成講座

地域における日本語学習支援で必要とされる知識や技術を学ぶボランティア養成講座を開催。

協働団体：ネクスト

全16回/各期

	期間	受講者数
第1期	5月13日～8月19日の16日間	274人
第2期	7月14日～11月24日の16日間	121人
第3期	11月26日～3月24日の16日間	258人
合計		653人

プログラム例：日本語文法、異文化理解、外国語体験、外国人児童の現状
ボランティア体験

■日本語ボランティア実地研修

日本語教室を見学し、他者の活動内容や教授技術を学ぶ。

教室後の振り返りに参加し、参考になった点や気付いた点を述べ技術を高め合う。

見学シートを提出し、他者の教室活動を客観的に評価するとともに自己研鑽に努める。

日本語教室・初級クラス	延べ460人
日本語教室・かな漢字クラス	延べ384人
日本語教室・N4、文法(基礎文法)クラス	延べ148人

■日本語ボランティアスキルアップ講座

日本語ボランティア養成講座修了生を対象に本講座を実施し、活動者のスキルアップを図った。

日本語学習支援者を対象とした日本語教育に関する知識を学ぶ講座

回	日時	内容	講師		受講者
1	4月10日	ボランティア活動発表		With U-Net	59
2	4月10日	日本語教室の実践研究① ～自己研修型教師を目指して～	新野 佳子	公益社団法人日本語普及協会 (AJALT)	25
3	4月10日	日本語教室の実践研究② ～自己研修型教師を目指して～	新野 佳子	公益社団法人日本語普及協会 (AJALT)	25
4	7月5日	フィリピン人青年の実態と課題	松本 義一	NPO 法人フィリピンナガイサ	28
5	8月21日	「わかる」から「できる」へプロフィシエンシーを意識した授業とは できる日本語使い方講座	嶋田 和子	一般社団法人アクラス日本語教育研究所	28
6	8月21日	「日本語 読み書きのたね」に学ぶ 生活者としての外国人のための読み書きの力	澤田 幸子	一般財団法人海外産業人材育成協会	34
7	4月10日 ～ 12月22日	日本語教室 実践研究 分科会	分科会研究班	With U-Net	26
8					27
9					30
10					27
11	12月22日	日本語教室 実践研究 分科会研究発表会	分科会研究班	With U-Net	27
12	1月25日	日本語教室で実践しよう！ 鍛える！質問力	鈴木あゆ美	日本語教師 米国 NLPTM 協会認定 トレーナー	18
総合計					354

■教職員多文化共生講座

協働団体：セメンチ パラ オ フトゥーロ

8月7日（金）9:00～16:15					
回	時間	内容			受講者
1	9:00～10:30	学校で使えるポルトガル語	セメンチ	パラ オ フトゥーロ	21人
2	10:45～12:15	誤解される日本語～学校現場で起こった事例から～	セメンチ	パラ オ フトゥーロ	21人

3	13:00～14:30	継承語と現地語でゆれる親子の取組	セムチ パラ オ フウロ	22 人
4	14:45～16:15	「ひょうたん島問題」から多文化共生を考える	浜松国際交流協会	21 人

85

8月31日(金) 9:30～11:00				
	場所	内容		受講者
出前	南の星小学校	「ひょうたん島問題」から多文化共生を考える	浜松国際交流協会	33 人

総合計	118 人
-----	-------

④ 地域日本語学習支援事業（市委託：外国人学習支援センター事業）

(3, 930 人 36 件)

■日本語学習支援団体ネットワーク会議

日本語学習支援団体間の情報の共有や共通課題の克服のためにネットワーク会議を開催した。

参加団体 27 人

回	日時		内容	参加者
1	7月57日	11:00～12:00	浜松日本語学習支援ネットワーク交流会	13 人
2	12月22日	13:00～15:00	ボランティアによる情報交換会	14 人

■地域日本語学習コーディネート業務（319 人 36 件）

- ・養成講座修了生による自主グループ「おしゃべりクラス」運営支援
「おしゃべりクラス」18 回開催 延べ 319 人参加
- ・日本語学習支援ボランティアコーディネート（大人）
日本語学習支援団体や個人に日本語教師およびボランティアを紹介 36 件
内訳：団体 2 件、個人 34 件

■フィリピン人児童・生徒を対象とした就学支援教室（ハロハロ教室）

協力 NPO 法人フィリピンナガイサ

会場 南部協働センター

期間	曜日	時間	参加者（延べ）	
			初期適応	寄り添い教室
5月8日～3月12日 (全 36 回)	土曜日	13:30～15:30	268 人	532 人

■ベトナム人の子ども学習支援（三方原教室）

協力 静岡県ベトナム人協会

会場 三方原協働センター

期間	曜日	時間	参加人数(延べ)	
			低学年教室	高学年教室
6月3日～3月22日 (全35回)	火曜日	18:00～20:00	488人	316人

■浜北日本語教室

協力 浜北国際交流協会

(会場：浜北文化センター 他)

期間	曜日	時間	会場	参加人数 (延べ)
4月4日～3月26日 (全49回)	土曜日	13:30～17:00	浜北文化センター	1,500
4月4日～3月26日 (全48回)	土曜日	午後と夕方	企業2社の寮	480

文化交流

7月	日本語能力試験おつかれさま会
11月	富士山紅葉狩り
12月	日本語能力試験おつかれさま会
	餅つき体験
1月	書初め
2月	白川郷見学

⑤ 浜松版地域日本語教師育成検討事業（文化庁委託）（210人）

概要

平成26年度文化庁委託事業で明らかとなった地域で活動する日本語教師の質・量の不足に対応するため、地域の特徴や現状を見極めそれに適した日本語教育ができる人材（浜松版地域日本語教師）の育成について検討し、HAJACテスト評価者養成講座や日本語教室を開催した。

■取組1 浜松版地域日本語教師養成講座カリキュラム開発会議

平成28年度の浜松版地域日本語教師養成講座の開講に向け、カリキュラムを開発した。また、講座が継続して開講できるよう、運営方法や関係機関との連携のあり方についても協議した。

会議参加者 嶋田和子（一般社団法人アクラス日本語教育研究所代表理事）

石川智子 (With U-Net)
小野彬 (ヒューマンアカデミー浜松駅前校)
白井えり子 (With U-Net 代表)
針山摂子 (With U-Net)
松葉優子 (With U-Net)
松本三知代 (With U-Net)

会議回数 6回

■取組2 浜松版地域日本語教師養成講座実践検証 HAJAC テスト評価者養成講座

平成24年度に開発した日本語コミュニケーション能力テスト (HAJAC テスト) ができる人材を養成する講座を行い、浜松版地域日本語教師に必要な要素を習得するために必要な事項について検証した。

期 間 11月28日～2月27日 (土) (全15回)

会 場 浜松市多文化共生センター、クリエート浜松5F会議室等

受講者 15人

■取組3 定住外国人のための日本語ブラッシュアップ講座

定住が長く、すでに仕事や地域で社会参画をはじめている外国人住民のさらなる社会的承認欲求に対し、中級以上の日本語教室を設置し、地域の活力となるグローバル人材を養成する。

第1期 日本語コミュニケーション～誤解をうまない伝え方～

日 時 平成27年5月23日～7月25日 (土) 9:00～12:00

会 場 浜松市多文化共生センター

受講者 14人

第2期 日本の組織文化・マナーや接遇、敬語の使い方

日 時 平成27年8月29日～10月31日 (土) 9:00～12:00

会 場 浜松市多文化共生センター

受講者 15人

第3期 読む・自分史を書く (作文)・発表する

日 時 平成27年11月28日～平成28年2月6日 (土) 9:30～12:00

会 場 浜松市多文化共生センター

受講者 9人

■取組4 写真で語る私の歴史～これまでの私とこれからの私～

日 時 平成28年2月14日 (日) 10:00～12:00

会 場 クリエート浜松2Fホール (ストーリーテリング)、2Fロビー (交流会)

参加者 143人

発表者 光城 ジャネット マリア (ブラジル)
 富永 結愛 (中国)
 村松 エンカルナシオン (フィリピン)
 佐古 フジサワ クリスチーナ (ブラジル)
 エルマー アルバリコ (フィリピン)
 宮城 ウェベルチ (ブラジル)
 ロドリゲス ナガオ マイシャ ミラグロス (ペルー)

■成果・課題

本事業を通じて、日本に定住する外国人との共生のあり方について、日本語教師や日本語学習支援関係者のみならず、民間企業や行政とも意見交換を行う機会となった。特に、日本語教育の重要性の再確認、また日本語教師の確保についての課題が共有されたのは大きな成果である。

また、イベントを通じてこれまで連携の薄かった外国人学校や専門学校、大学との関係が深まった。日本育ちの外国にルーツのある若者や新しく来日する若者の学びのつながりのためにも引き続き円滑な関係を維持したい。

来年度は、今年度開発したカリキュラムをもとに、地域で活動する日本語教師を養成する講座を開催し、日本語教師の質・量の継続的な確保に努めたい。

3. 外国につながる子ども支援事業（市委託：外国人学習支援センター事業）

参加者数：延べ 18 人 14 件

① 外国人子ども学習支援ボランティア活動コーディネート（14 件）

小中学校や支援団体に日本語教師及び学習支援ボランティアを紹介 14 件

② 外国につながる若者の学び直し教室（18 人）

10 代後半で親の呼び寄せにより来日した若者、外国人学校を卒業した若者、義務教育を受けていない若者や、高校等への進学がかなわなかった若者が学び直すための機会を提供するとともに、地域社会で活躍できるための効果的な支援のあり方を研究する

教室名	若者のためのはじめてのにほんご
実施期間	平成 27 年 5 月 23 日～7 月 25 日（土） 13:30～15:00 全 11 回
受講者数	18 人（フィリピン 16 人、中国 1 人、ペルー 1 人）
講師等	日本語教師 3 人、バイリンガルアシスタント 2 人
内容	来日したばかりで日本語ゼロの若者を対象とし、U-ToC レベル 0 のカリキュラムを使い入門レベルの授業を行った。

社会、家庭で孤立しないよう、仲間作り、居場所としての機能も果たせるようバイリンガルアシスタントに入ってもらい、アクティビティを多用した。また、職業経験としてオイスカ開発教育専門学校へ農業体験に行った。

全 11 回 17 時間の日本語教室では日本語の十分な習得は難しいが、横のつながりができることで居場所としての機能は果たせた。講座終了後に次のリソースへつなげたかったがタイミングが合わなかった。4 人が U-ToC へつながったものの、立地の問題で 2 人しか残らず、今後の開催場所についての参考にした。

③ 外国人の子どもの不就業ゼロ作戦事業

外国籍の就学年齢の子どもで不就業が確認された者につき、訪問等で実際の状況を確認し、状況に応じてなんらかの教育環境につなげる。

■就学状況の把握

(人)

	調査項目	対象	調査対象者	就学や転出が確認された者	推定不就学者
A	新小学校 1 年生	4 月に小学校 1 年生相当の年齢になる外国人の子ども	39	14	25
B	転入者	新たに浜松市に転入してきた外国人の子ども	96	19	77
C	退学者	公立小学校、外国人学校等を退学した外国人の子ども	74	16	58
	合計		209	49	160

■推定不就学者の訪問調査結果

項目			内訳	
推定不就学者 (160)	浜松市に居住 (98)	就学 (54) 支援・継続調査により 就学が確認できた者	公立小学校	5 人
			公立中学校	3 人
			私立中学校	0 人
			市内の認可外国人学校 * 1	43 人
			市外の認可外国人学校	3 人
		実質不就業 (25)	学習支援教室等に在籍	7 人
			学習支援教室等にも在籍なし	18 人
			就学予定 (12) * 2	ガイダンス・手続き済みの者
	居住実態なし (62) 訪問等の調査により、転居・帰国が確認できた者	対象外案件 (7)		7 人
		転居・居住実態なし	25 人	
	帰国	35 人		
		長期休暇を利用して来日等	2 人	
合計			160 人	

■平成 27 年度に不就学が確認された者の現在の状況

項目			内訳	
調査により不 就学が 確認さ れた者 (25)	浜松市に居住 (22)	就学 (8) 支援・継続調査により 就学が確認できた者	公立小学校	3 人
			公立中学校	5 人
			私立中学校	0 人
			市内の認可外国人学校 * 1	0 人
			市外の認可外国人学校	0 人
	実質不就学 (13)	学習支援教室等に在籍	6 人	
		学習支援教室等にも在籍なし	7 人	
	居住実態なし (62) 訪問等の調査により、転居・帰国が確認できた者	就学予定 (12) *2	ガイダンス・手続き済みの者	1 人
		転居・居住実態なし	2 人	
合計			25 人	

* 1 本国政府による認可

* 2 教育委員会及び学校、学習支援教室等と各家庭の相談の中で 4 月入学を選択し、準備を済ませている者

■実質不就学者の内訳

項目			内訳
実質不 就学者 (13)	学習支援教室等に在 籍あり (6)	本国政府認可外の学習施設に通っている	1 人
		就学支援教室等に通っている	5 人
	学習支援教室等にも 在籍なし (7)	学校や支援教室に通っておらず、帰国予定もない	1 人
		就学予定あり	6 人
		転出 (国内・国外) 予定 (1 ヶ月未満)	0 人
		転出 (国内・国外) 予定 (1 ヶ月以上先)	0 人
合計			13 人

不就学者への支援

不就学が判明した者については、適宜その後の状況確認、就学支援を実施

訪問面談	10 件	不就学判明後の状況確認、面談等
情報提供	13 件	教育相談支援センターや学習支援教室、 NPO 教室等を紹介

■不就学者(全体)の現在の状況 (平成 28 年 3 月 31 日現在)

*地域からの情報により不就学が判明した 1 名を含む

項目		内訳	
実質不 就学者 (22)	学習支援教室等に在 籍あり (13)	本国政府認可外の学習施設に通っている	6 人
		就学支援教室等に通っている	7 人
	学習支援教室等にも 在籍なし (9)	学校や支援教室に通っておらず、帰国予定もない	2 人
		就学予定あり	6 人
		転出 (国内・国外) 予定 (1 ヶ月未満)	1 人
		転出 (国内・国外) 予定 (1 ヶ月以上先)	0 人
合計		22 人	

4. 地域共生事業 (市委託：多文化共生センター事業)

参加者数：延べ 57 人 14 件

①各地域への個別支援 (14 件)

地域名	内容
県営浜北団地	新年度班長への説明会にポルトガル語の通訳を同行。
県営湖東団地自治会	自治会加入のチラシをベトナム語に翻訳。
遠州浜第三自治会	夏祭りのチラシのポルトガル語版を今年度版に改定。
遠州浜公団自治会	ゴミの出し方について案内チラシを作成、ポルトガル語に翻訳。
西伊場自治会	ゴミの出し方について案内チラシをポルトガル語に翻訳
県営浜北団地	班長向けの説明書をポルトガル語・タガログ語に翻訳
高丘自治会	ベトナム人住民へゴミの出し方について案内するにはどうしたらいいか、相談。
常磐町自治会	ごみ出しについての案内をポルトガル語へ翻訳。
上島町南自治会	ブラジル人クラブとブラジル人教会の騒音問題について相談。話し合いの場を設定するのでオブザーバーとして出席してほしい。(11月22日(日)出席)
高丘在住住民	ブラジル人教会の騒音問題について匿名でメール・電話による相談。夏ごろに市役所に相談して様子を見てもらったが、改善していない。
浜北区高畑 雇用 促進住宅の自治会	防災訓練と大掃除のお知らせをポルトガル語、フィリピン語、ベトナム語、英語に翻訳。
薬新団地自治会	子ども会の活動に外国人の子どもも多く参加しているので、一度見に来てほしい。
鷺の宮団地自治会	外国人住民と高齢者、母子家庭ばかりで自治会活動が立ち行かなくなっている。
鷺の宮団地自治会	自治会費の値上げのお願いと掃除当番についての連絡を英語・ポルトガル語へ翻訳。

②地域共生自治会会議「外国人住民とともに行う避難所運営（HUG）」（57人）

■「在住外国人を交えたHUG（避難所運営）訓練」の開催

自治会の役員と災害時多言語ボランティア（主に外国人リーダー）と一緒に、HUG（避難所運営）訓練を行う。それを通して実際の地域の避難所で、外国人を交えた避難所運営について考える。

日時 1月31日（日）14：00～17：00

会場 クリエイト浜松1階ふれあい広場

参加者 浜松市内自治会関係者、災害時多言語ボランティア（主として外国人）

内容 HUG（避難所運営）訓練、静岡県西部危機管理課よりアドバイス

参加者 57名（内訳：17自治会24人、外国人リーダー33人）

成果 外国人リーダーと自治会役員とが同じテーブルで意見交換をすることができた。避難所運営者として外国人に参加してもらった重要性に気づいた自治会役員も多かったようだ。

5. 多文化防災事業 参加者数：131人 13件

①災害時多言語支援センター設置訓練（市委託：多文化共生センター事業）

12月12日 遠州病院・常磐町自治会との連携で実施

「災害時訓練@遠州病院」

災害時多言語ボランティア（外国人）16名参加

②モデル地区への入り込み支援（市委託：多文化共生センター事業）

■入野地区

避難所運営訓練を実施。外国人参加者の募集を行った。

日時 8月22日、23日 19：00～7：00

会場 入野協働センター 体育館

参加者 災害時多言語ボランティア養成研修参加者9人、自治会関係者、入野地区住民

内容 19時のサイレンを聞いて各自避難所に避難。避難所に何を持っていくのか各自考えることが一つのねらい。

「ガイコクジンだらけの避難所」（NHK）のDVDを視聴。

成果 外国人リーダーが自ら積極的に日本人住民のところに話しかけに行き、ざっくばらんな交流のよい機会となった。日本人住民としては、普段は外国人住民とあいさつくらいはするが、それ以上の話をしたことがないという人がほとんどであったが、いろいろなおしゃべりをする中で、外国人住民に対して心理的な壁が低くなったと思われる。ただ、今回の外国人リーダーには入野地区の外国人住民がいなかった。

■中央地区

災害時多言語支援センター立ち上げ訓練を遠州病院及び中央地区自治会連合会と協働開催。

日 時 12月12日(日) 遠州病院の災害時訓練と連携して開催
 会 場 多文化共生センター及び遠州病院
 内 容 遠州病院の災害時訓練と連携して、多文化共生センターにおいて災害時多言語
 支援センターを立ち上げたと想定し、遠州病院からの依頼で災害時多言語ボラ
 ンティアの派遣(通訳として)等を実際に行った。
 参加者 災害時多言語ボランティア(外国人)16人

③ 災害時の情報提供(市委託:多文化共生センター事業)(13件)

Facebookで災害情報を多言語で発信
 災害注意情報 5回(台風注意報、大雨による避難勧告等)
 災害関連情報 8回(水難事故啓発、地域防災訓練等)

④ 災害時多言語ボランティア養成研修(自主事業)(131人)

概 要 防災面において、また災害が実際に起こった際に在住外国人に対して効果的な情報提供や支援を行うためには、当事者である在住外国人の働きが重要になってくる。そこで、主に外国人当事者の災害ボランティアの養成・研修を行った。浜松市内の7つの主な言語(ポルトガル語、タガログ語、中国語、スペイン語、ベトナム語、インドネシア語、英語)を母語とする人に募集をかけた。特に、仕事として通訳や相談業務に携わっており、外国人コミュニティ内でリーダー的な役割を担っている人を対象とすることで、外国人コミュニティに対してより大きな影響力を持つように工夫した。さらに、参加者の中から企画・運営に関わってくれるリーダー的な役割を担う人を各言語ごとに1名、計7名依頼した。このことにより、外国人住民当事者の視点を研修に取り入れるると同時に、より一層、災害時多言語ボランティアとしての自覚を高めてもらうようにした。
 また、この研修を修了した在住外国人には修了証を発行し、浜松市災害時多言語支援センターの災害時多言語ボランティアとして登録してもらった。

■スケジュール

月	メインプログラム(全3回)	現場研修(全3回)	企画・運営リーダーとの打ち合わせ(全5回)
6	参加者の募集		
7	【第1回】7月11日(土)		7月30日
8		【第1回】8月22、23日(土日)	8月31日
9	【第2回】9月13日(日)		
10		【第2回】10月17、18日(土日)	10月8日
11			11月19日
12		【第3回】12月12日(土) *もしくは地域防災訓練12月6日(日)	
1	【第3回】1月31日(日)		1月14日
2	ボランティア登録・FacebookグループSOS HICEへの登録		

■メインプログラム

【第1回】講義「浜松市地域防災計画・災害時多言語支援センターについて」

日時 7月11日(土) 14:00～15:30 会場：浜松市多文化共生センター 参加者：34人

内容 「浜松市における防災の取組みについて」浜松市危機管理課より講話

「浜松市災害時多言語支援センターについて」浜松国際交流協会より講話

成果 基礎的な知識として浜松市の地域防災計画をはじめ、防災の取組みについて学んだ。自分たちが活動する浜松市災害時多言語支援センターの位置づけが浜松市の防災の取組みの中でどのように位置づけられているかを確認した。

【第2回】出張研修「静岡県地震防災センター」

日時 9月13日(日) 9:00～17:00 研修先：静岡県地震防災センター 参加者：34人

内容 センターにおいて専門家から説明を受けながら施設を見学した。地震や津波発生の仕組み、南海トラフ地震について、静岡県第四次地震被害想定などについて学んだ。最後に、災害ボランティア経験者から東日本大震災についてのボランティア体験談もうかがった。

成果 整った設備で充実した説明が聞けた。質問もいろいろできたので、満足できた。バスツアーという形で行い、リーダーにバスの中で防災に関するクイズを企画してもらするなど、仲間作りもできた。

【第3回】ワークショップ「地域の自治会役員と避難所運営ゲーム(HUG)体験」

日時 1月31日(日) 14:00～17:00 会場：クリエート浜松1階ふれあい広場

参加者 33人(その他、自治会役員24人 合計57人)

内容 避難所運営ゲーム(HUG)を自治会役員と行った。その後、静岡県西部危機管理局に質問に答えていただき、避難所運営のヒントを学んだ。

成果 自治会役員の方との意見交換・交流につながった。避難所について初めて具体的に自分で考えた外国人がほとんどだった。自治会役員に、避難所運営をする際に外国人にも加わってもらうという発想をもってもらえた。静岡県西部危機管理局には、阪神大震災や東日本大震災の経験を交えて具体的に答えてもらえたので、非常に参考になった。

■現場研修

【第1回】入野地区避難所体験に参加

日時 8月22日(土)、23日(日) 会場：入野協働センター体育館

参加者 9人(その他、地域住民約100人)

内容 入野地区連合自治会が主催する避難所体験に参加。東日本大震災時の仙台市内のある避難所で外国人が過半数を占めた事例を報告したNHKドキュメンタリー「ガイコクジンだらけの避難所」を住民とともに鑑賞。その後、外国人リーダー参加者が住民の間を回っておしゃべりをしながら交流を図った。

成果 外国人リーダーが自発的に住民の間を回っておしゃべりをするという行動を取り、友好的な交流の輪が広がった。日本人住民の中には、外国人の多く住む地域にもかかわらず、挨拶くらいの関係でこんなにおしゃべりしたことはなかった、楽しかったとい

う感想を言ってくれた人もいた。

【第2回】浜松市発達医療総合福祉センターの防災・福祉避難所宿泊体験「障がいをもつ子と家族のためのサバイバルキャンプ&防災ワークショップ」に参加

日時 10月17日(土)、18日(日) 会場：浜松市発達医療総合福祉センター

参加者 5人(その他、センター利用者、医師・看護師・ボランティア等スタッフ合計約100人)

内容 福祉避難所宿泊体験、防災ワークショップ「イザ!カエルキャラバン」など

成果 福祉避難所という存在について学ぶことができた。医師・看護師などに通訳などとしての外国人ボランティアの効果に気づいてもらえた。

【第3回】遠州病院での災害時訓練に参加

日時 12月12日(土) 9:00~13:00

会場 遠州病院、遠州鉄道「遠州病院前駅」、アクト通り

参加者 16人(その他、病院関係者、自治会関係者、遠州鉄道関係者、ボランティア約100人)

内容 遠州灘を震源とするマグニチュード8の大規模地震が発生したと想定し、遠州鉄道が脱線するなど多数の負傷者が出たと想定。その中に外国人負傷者として外国人に参加してもらい、通訳として外国人リーダーに参加してもらった。

成果 遠州病院、遠州鉄道、地域自治会、浜松市消防局との広範囲の連携が初めてできた。災害時多言語ボランティアの存在を知ってもらうことができた。

■成果

参加者 44人 うち修了者36人➡「災害時多言語ボランティア」としてHICEに登録(ポルトガル語14人、タガログ語5人、中国語3人、スペイン語3人、インドネシア語9人、ベトナム語1人、英語1人)

Facebookグループ「SOS HICE ボランティア」をたちあげ、修了者が登録。

助成 一般財団法人自治体国際化協会(クレア)

6. 多様性を生かしたまちづくり事業(市委託：多文化共生センター事業)

参加者数：延べ214人56件

① はままつ多文化共生MONTH事業コーディネート

浜松市内で行われる多文化共生を推進する事業について、「はままつ多文化共生MONTH事業」として認定し、共通のちらしを多言語で作成(日本語、英語、ポルトガル語)するなど、多文化共生を進める活動を支援した。

ちらし55,000部作成 6事業13日間 参加者合計 約29,385人

※他団体主催事業のみ掲載

事業名	参加者
浜松カップ 「フェスタサンバ2015」	約28,800人
多言語 de 世界のアウトドアキャンプ体験	約40人
SUAC 碧風祭で国際交流・多文化共生にふれよう!	約300人
ジャボラ NPO 日本語教え方教室	延べ約75名
市民向け中国語講座(初級・中級)	延べ約50名

② 文化・スポーツ紹介事業

Facebook で浜松市内の主要な文化・スポーツイベント等についての情報を多言語で提供。

50 件（浜松まつり、姫様道中など地域のお祭り、スポーツ教室案内、シティマラソン等）

③ 地域活性化セミナー

■留学生と企業の交流会

日 時 2 月 11 日（木・祝）13：30～16：00

会 場 静岡大学浜松キャンパス 佐鳴会館ホール

参加者 44 人 * 静大留学生 22 人（中国、ベトナム、マレーシア、カザフスタン、韓国、スリランカなど）

* 参加企業：日本軽金属(株)、(株)河合楽器製作所、(株)岐阜セラミック製造所、(株)こころ、(株)はまぞう、(株)サンロフト、KDDI 株コンシューマ浜松支店、(株)鈴木スプリング製作所、(株)STC 計 9 社

内 容 1. 企業説明
2. 留学生からの共通質問
3. 個別質問

成 果 9 社という多くの企業が留学生の採用に関心を持って参加した。留学生は静岡大学以外にも声をかけたが、結果として静岡大学のみであった。留学生、企業ともにぎっくばらんに話をするいい機会だったということだが、直接的なマッチングにはいたっていない。

■第 3 回「在住ブラジル人のための労働セミナー」

趣 旨 浜松で一番人数の多いブラジル人住民を対象として、彼らがグローバル人材として活躍してもらうためのセミナーを行う。賢い労働者になるための話や資格取得を通してスキルアップする、起業するなど幅広い可能性について示す。

日 時 10 月 25 日（日）14:00～19:00

会 場 地域情報センター

内 容 「労働者の権利、有給休暇などについて」講師：在浜松ブラジル総領事館労働課
「日本の社会保険制度について」講師：島村フミオ（社会保険労務士）
「労働者のための調停」講師：石川エツオ（弁護士）
「日本で起業を成功するために」講師：邑井フランキー（在日ブラジル商業会議所副会頭）
「在日ブラジル人若者の夢」講師：トバセ・エウエルトン（フリージャーナリスト）
「日本の労働市場で上手くいったブラジル人」*ビデオインタビュー
「ブラジル・日本社会保障協定について」講師：ブラジル厚生労働省

参加者 74 人

主 催 在浜松ブラジル総領事館、ブラジル労働雇用省、ブラジル外務省、HICE

成 果 特に若い世代に対して、資格取得や起業などについても考える機会となった。

■出張 COLORS

趣 旨 外国にルーツを持つ若者グループ「COLORS」が、外国にルーツを持つ高校生に将来について考えてもらうことを目的としたワークショップを行う。支援活動を通して彼ら自身の成長にもつなげる。

日 時 ①9月18日（金）、②10月9日（金）、③11月20日（金）19：00～21：00

会 場 静岡県立浜名高校

対 象 浜名高校定時制に通う外国にルーツを持つ生徒

参加者 延べ78人

内 容 ①自己紹介ゲーム、海外の生活習慣クイズ、料理当てクイズ、世界のことわざクイズ、新聞で動物作りゲーム

②自己紹介ゲーム、単語当てゲーム、NASA 入社試験ゲーム、COLORS メンバー出演動画鑑賞、COLORS メンバーとの座談タイム

③自己紹介ゲーム、日本語能力検定試験ゲーム、日本国籍取得についての説明、座談会（テーマ：国籍取得）、就活での自己PRについての説明、自己PRの見つけ方ワークショップ

成 果 参加した高校生からは「楽しい」という感想や、扱うテーマの要望も挙がった。別の高校からも出張 COLORS を実施してほしいと依頼があり、来年度からは2校で実施することとなった。

■外国にルーツを持つ若者による若者のための就職セミナー

「グローバル人材就職応援セミナー～外国にルーツを持つ若者の特性を活かした就職とは？～」

趣 旨 外国にルーツを持つ若者が自分の強みについて自覚し、アピールできるようにする。地域の企業に外国にルーツを持つ彼らの存在や能力についてアピールし、就職など人材活用につなげる。

日 時 1月24日（日）13:30～16:00

会 場 多文化共生センター

内 容 【第1部】先輩からのお話 吉田さゆり（磐田信用金庫）、長井健太（浜松市役所）

【第2部】企業からのお話 （株）知久、浜松信用金庫、（株）STC、遠鉄グループ

【第3部】座談会

参加者 18人

司会進行 COLORS（外国にルーツを持つ若者グループ）

成 果 ブラジルにルーツを持つ高校生、タイにルーツを持つ大学生、フィリピンにルーツを持つ若者などが参加した。参加者からは、「外国にルーツを持つ色々な人に出会えてよかった」、「座談会を今後も開催してほしい」、企業の方からは、「日本人学生よりよっぽど根性があり忍耐力もある」「自らの強みを活かせる企業はどの企業なのかということ、日本人の学生以上に強く考えている」との声が聞かれた。

グローバル感覚に優れた人づくり

1. グローバル人材の育成と活用 参加者数：延べ 11,868 人

① 地球人教育出前講座及びコーディネート

(市委託：多文化共生センター事業) (2,523 人)

国際協力機構 (JICA) と連携し、外国人講師や国際理解教育の専門家の講師派遣等を、通じて、市内小中学校や公民館等における国際理解を推進した。

■学校への派遣

学校名	派遣人数	対象/参加者数
浜松学院中学校	3 人	中学生 21 人
新津小学校	1 人	小学生 126 人
南の星小学校	1 人	小学生 160 人
葵西小学校	2 人	小学生 89 人
広沢小学校へ	1 人	小学生 154 人
南の星小学校	1 人	外国人保護者 30 人
延べ 6 校	延べ 9 人	延べ 580 人

■協働センター等への派遣・コーディネート

派遣先名	派遣人数	対象/参加者数
浜松市立看護専門学校	延べ 14 人	看護学生延べ 560 人
浜北国際交流協会	1 人	80 人
シンポジウム「地域社会における『多文化共生』と宗教」	1 人	60 人
東京外国語大学	1 人	200 人
名古屋外国語大学	1 人	100 人
外国人集住都市会議	1 人	500 人
遠州浜すくすく広場	1 人	20 人
静岡文化芸術大学	1 人	149 人
静岡人権フォーラム	1 人	15 人
明治学院大学	2 人	50 人
延べ 10 箇所	延べ 24 人	延べ 1734 人

■学校等からの訪問

学校名	期間	参加者数
静岡県国際交流協会	1 日	2 人
静岡大学	1 日	23 人

遠州鉄道	1日	5人
海外日系人協会	1日	37人
慶応義塾大学	1日	1人
豊橋技術大学	1日	1人
筑波大学	1日	1人
筑波大学附属視覚特別支援 学校	1日	1人
日本福祉大学	1日	1人
静岡文化芸術大学	4日	22人
新任 ALT	1日	9人
東京大学	2日	2人
カルフォルニア大学	1日	13人
宇都宮大学	1日	1人
朝鮮通信使	1日	50人
ニューヨーク大学	1日	1人
関西学院大学	1日	1人
東京外国語大学	1日	1人
専門学校ルネサンス・デ ザインアカデミー	2日	1人
横浜国立大学	2日	2人
所沢市	1日	2人
静岡県立大学	1日	1人
浜松市立新津中学校	2日	4人
上智大学	1日	1人
松下政経塾	1日	1人
韓国訪問団	1日	14人
立教大学	1日	1人
東北学院大学	1日	1人
岐阜大学	1日	1人
韓国安東大学	1日	1人
四日市市	1日	2人
香川大学	1日	1人
東京学芸大学	1日	4人
延べ 33 団体	延べ 36 日	延べ 209 人

②国際理解教育講座（250人）

■国際理解教育セミナー「CAFÉ 選びで世界を変える」

（市委託：多文化共生センター事業）（65人）

趣 旨 フェアトレードの仕組みや生産者への影響、世界的な最近の動き、消費者として自分たちができることについて考えることで、世界的な視野を持ってエシカル（倫理的に正しい）消費行動について理解し、行動できるようにする。また、浜松で実際にフェアトレード事業を展開している方からお話をうかがい、住んでいる地域で出来ることを考えるきっかけとする。

日 時 8月1日（土）13：30～16：00

内 容

- ・講演「フェアトレードとエシカル消費～グローバル化時代の責任ある消費者とは？～」
講師：ジェトロ アジア経済研究所上席主任調査研究員 佐藤寛
- ・コーヒーブレイク（浜松で事業を展開するお店からフェアトレードスイーツとコーヒーの提供）
- ・パネルディスカッション（株式会社豆乃木の杉山世子、ハニココスイーツの綿瀬淳子、とまり木 cafe 深田真央によるパネルディスカッションを実施。）

参加者 65人

共 催 ジェトロ浜松、JICA 中部、はままつ国際理解教育ネット

■国際理解教育セミナー「世界がもし 100 人の村だったらワークショップ」

（市委託：多文化共生センター事業）（55人）

趣 旨 フェアトレードの仕組みや生産者への影響、世界的な最近の動き、消費者として自分たちができることについて考えることで、世界的な視野を持ってエシカル（倫理的に正しい）消費行動について理解し、行動できるようになる。また、浜松で実際にフェアトレード事業を展開している方からお話をうかがい、住んでいる地域で出来ることを考えるきっかけとする。

日 時 10月25日（日）10：00～11：30

内 容 ・JICA プログラム紹介、青年海外協力隊体験談「ブルキナファソ」

吉田裕（JICA 浜松市デスク）、杉山弘樹（協力隊OV）

・ワークショップ「世界がもし 100 人の村だったら」ワークショップ

中澤純一、三田景子（はままつ国際理解教育ネットワーク）

参加者 55人

共 催 浜松市中部協働センター、JICA 中部、はままつ国際理解教育ネット

■国際理解教育セミナー「イメージとちがう!?統計データから見る世界～ギャップマインダー」

(自主事業) (21人)

趣 旨 スウェーデンのギャップマインダー財団が開発した統計アニメーションソフト「ギャップマインダー」を使って、統計データを見ながら世界の現状とイメージのギャップを確認し、正しい情報を得ることの大切さを考える。

日 時 8月30日(日) 13:30～16:00

内 容 ギャップマインダーを使いながらのクイズ、海外滞在経験者からの話

参加者 21人

共 催 はままつ国際理解教育ネット

■国際理解教育ファシリテーター養成リレー講座(自主事業)(109人)

内 容 在住外国人も多く、国際的な活動を展開する企業も多い浜松市において、真に国際理解の進んだグローバルな地域にしていくためには、人類共通の課題である多文化共生・貧困・異文化理解・環境などを自分の課題としてとらえ、解決に向けて行動を起こす人材を育てることが必須である。そのために、参加型学習という方法で実践できる人材を育てるための国際理解教育ファシリテーター養成講座を開催した。この講座受講生が、2月12日に行われたグローバルフェア内で国際理解教育ファシリテーターとして活躍した。

場 所 多文化共生センター

対 象 教員、ボランティア活動者など

参加者 延べ109人

共 催 はままつ国際理解教育ネット、JICA 中部

	テーマ	日時	参加者
第1回	世界を知り、考えるための“参加型学習”	9月27日(日) 13:00～17:00	30人
第2回	浜松から「世界」を発見～まち歩き付き～	10月10日(土) 13:00～17:00	24人
第3回	話し合いを活性化するためのスキルアップ	11月15日(日) 13:00～17:00	29人
第4回	あなたも今日から国際理解教育ファシリテーター	11月30日(日) 10:00～17:00	26人
合計			109人

③第6回はままつグローバルフェア(自主事業)(約3500人)

目 的 ①広く市民(特に次世代を担う子ども・若者)に呼び掛け、国際交流に参加するはじめての一步の機会とし、文化を通じた多文化共生の社会づくりにつなげる。外国人と日本人同士の交流の場を提供し、気軽に多くの方に参加してもらう機会とする。

②浜松市内で国際理解や多文化共生、国際協力に関わっている団体や個人に企画者として参

加してもらうことで、団体間の協力関係を構築する。より多くのアマチュアの市民グループにダンス・音楽などのステージに参加してもらうことで、発表の機会を提供する。

③国際理解教育ファシリテーター養成リレー講座の成果を発表する機会とする。

日 時 2月14日(日) 10:00～17:00

場 所 クリエイト浜松

参加者 一般市民 約3500人

主 催 公益財団法人浜松国際交流協会、はままつ国際理解教育ネット、独立行政法人国際協力機構中部国際センター(JICA 中部)、公益財団法人浜松市文化振興財団(クリエート浜松)

後 援 浜松市、静岡新聞社・静岡放送、中日新聞東海本社、NHK静岡放送局浜松支局、FM Haro!、K-mix

内 容

1階 World Market Zone ワールド・マーケット・ゾーン			
会場	内容	担当	詳細
ふれあい広場	物品販売・ブース出展	HICE	フェアトレード商品などの物品販売、ブースによる国際交流・国際協力や多文化共生に関する活動・事業紹介。
	壁画展示 アートマイル	JICA	「平和」をテーマに各国の子どもたちが共同で制作した壁画を展示。静岡県内の高校と浜松学院中が制作。
	ワールドステージ	HICE	踊りや音楽のミニステージをふれあい広場、アートマイル前に設置。世界の音楽やダンスに触れる場を提供。
創造活動室	環境イベント	オイスカ 開発教育 専門学校 /HICE ボランティア	10:00～17:00 間伐材を利用した積み木で子どもたちに遊んでもらうことを通じて環境を考える(オイスカ)。 世界の絵本の展示と読み聞かせを行う(HICE ボランティア)。
外：中庭	世界の料理	HICE	ブラジル風焼き肉、ベトナム料理、フィリピン料理等
2階 World Stage Zone ワールド・ステージ・ゾーン			
ホール	写真で語る私の歴史	U-ToC	10:00～11:00 在住外国人住民が貴重な写真を見せながら、これまでの私とこれからの私について語る。 11:10～11:40まで交流会あり。
	多文化共生	フィルハマ	13:00～14:30 ドキュメンタリー映画「ハーフ」上映。
	国際協力	JICA	14:45～15:45

	ステージ		「なんとかしなきゃ！プロジェクト」メンバーの矢野デイビット氏による講演。
ホール前	写真展示	U-ToC	「写真で語る私の歴史」に関する写真を展示。
21 講座室	国際 ナショナル パーティ	はま国	16:00~17:00 映画上映後に国際ナショナルパーティを行う。
22 講座室	留学情報	HICE (アズ)	11:00~12:30 留学経験者による、経験談の発表 など
アトリエ	国際理 解・海外 文化体験 コーナー	在日キル ギス人協 会	10:00~17:00 キルギス文化の紹介
4階 本部・総合案内所			
多文化共生セ ンター	本部・総 合案内所	HICE	10:00~17:00 スタンプラリー抽選会場及び、総合案内所
多文化共生セ ンター前廊下	団体活動 紹介展示	HICE	10:00~17:00 市民団体等が国際交流や多文化共生に関する活動を展示により紹介する。
多文化共生セ ンター（セミ ナールーム）	控え室	HICE	A ルーム：ワールドステージ リハーサル室 B ルーム：ワールドステージ 男性控え室 C ルーム：ボランティアスタッフ 男性控え室
特別会議室	控え室	HICE	ワールドステージ 女性控え室
5階 Workshop Zone ワークショップ・ゾーン			
51 会議室	国際理 解・海外 文化体験 コーナー	はま国	はま国：国際理解教育ワークショップ等 ものづくり体験教室 JICA：JICA ブース、民族衣装体験コーナー フレクティブ：世界のゲーム体験コーナー アミット：書道体験コーナー
52 会議室			
53 会議室			
54 会議室			
スタジオ			
和室	日本文化 体験	ゆめはな スクール	着付けと生け花体験。

④ ハロー！はままつフェアトレード DAY 2016（自主事業）（約1,000人）

目 的 多くの浜松市民にフェアトレード商品の存在を知ってもらうとともに、世界の生産者の実情を知ってもらう。また、浜松で活動するフェアトレード活動者をエンパワーするとともに、ネットワークを促進する。

日 時 2月27日（土）10:00～18:00 28日（日）10:00～17:00

場 所 イオンモール浜松志都呂 1階専門店街 セントラルコート

参加者 一般市民 約1,000人

主 催 はままつフェアトレードタウン・ネットワーク
（事務局：静岡文化芸術大学下澤嶽研究室、HICE）

後 援 浜松市

協 力 イオンモール株式会社 浜松志都呂

内 容 ・フェアトレード団体出店（11店舗）

豆乃木、とまり木、ハニココ・スイーツ、Sunshine Verde island、あさのは屋、すいーとまむ、Natshell、いもねこ、タベボラ、スターバックス、Lush
・アフリカのフェアトレードビーズでストラップづくり（はままつ国際理解教育ネット）

⑤ 多文化体験・交流事業（市委託：外国人学習支援センター事業）（4,595人）

学習支援センターにおいて、日本文化を含む様々な国の文化を体験するような講座を実施。年に3回、交流イベントも行った。

■多文化体験

	日程	コース	講師	参加者
1	4月2日	お花見をしよう！	おしゃべりタイム	52
2	5月18日	マリネラダンス	Grace Akiko Kague Casalino	5
3	7月22日	流しそうめん	おしゃべりタイム	64
4	8月8日	カポエイラ	Marlon Renato Akaboshi da Garcia	23
5	9月16日	和菓子	(株)田町梅月	24
5	10月21日	稲刈り	らびりんす雄踏	30
6	12月7日	もちつき	雄踏地区民生委員・児童委員協議会	35
7	1月25日	春節	李レイ	15
8	2月17日	ひな祭り-ちらし寿司の カップケーキを作ろう！-	おしゃべりタイム	20
9	3月18日	世界の果てまで旅気分-ブ ラジルの絶景10選-	ツニブラトラベル・ジャパン株式 会社	17
合計				285

■多文化イベント

	第1回	第2回	第3回
テーマ	フェスタジュニーナ (ブラジルの収穫祭)	ワールドクラフトフェア	文化祭
開催日	6月21日(日)	10月3日(土)	11月21日(日)
場所	外国人学習支援センター	イオンモール浜松志都呂店	外国人学習支援センター
協力	セメンチ パラ オ フトゥーロ		
参加者	130人	680人	3500人
	合計		4,310人

2. 国際交流・理解のための外国語講座 参加者数：延べ1,208人

①国際交流のための外国語講座（自主事業）（152人） 会場：多文化共生センター

■国際交流のためのタイ語講座：初級

講師	キッパームチャルーン・チュダー		
日程	火曜日 19:00～20:30		
第1期	5月12日～7月28日（全12回）	15人	受講者 合計22人
第2期	11月3日～12月22日（全8回）	7人	

■国際交流のための英語講座：中級（全12回）

講師	第1期 ダビッド・マーテル（火）、第2期 ダビッド・マーテル（火）、 第2期 ノブレ・メンセディタ（木）		
日程	火曜日 10:00～11:30、木曜日 19:00～20:30		
第1期	5月12日～7月28日（昼）	15人	受講者 合計64人
	5月14日～7月30日（夜）	14人	
第2期	9月29日～12月15日（昼）	15人	
	10月1日～12月17日（夜）	6人	
第3期	1月19日～3月8日（昼）（全8回）	14人	

■国際交流のためのインドネシア語講座：初級（全12回）

講師	リタ・ノフィアナ		
日程	水曜日 19:00～20:30		
第1期	5月13日～7月29日	8人	受講者 合計16人
第2期	9月30日～12月16日	8人	

■国際交流のためのベトナム語講座：初級（全12回）

講師	ブ・トウイ・アン		
日程	木曜日 19:00～20:30		
第1期	5月14日～7月30日	6人	受講者 合計6人

■国際交流のためのフランス語講座：初級（全12回）

講師	ジョンル・ペトルキャン		
日程	金曜日 19:00～20:30		
第1期	10月2日～12月18日	15人	受講者 合計15人

■国際交流のためのスペイン語講座：初級（全12回）

講師	野国マリエラ		
日程	金曜日 19:00～20:30		
第1期	5月15日～7月31日	11人	受講者 合計29人
第2期	10月2日～12月18日	8人	
第3期	1月8日～3月25日	10人	

②国際交流のための外国語サロン（自主事業）（287人） 会場：多文化共生センター

■各国語サロン：中級以上

講座名	中国人大学講師から学ぶ中国の現在	Let's E-会話	世界のE-文化
開催日	6月27日、7月11日、25日 土曜日（前期のみ） 10:00～12:00	4月～6月 月1回 日曜日 13:30～15:30	7月～3月 月1回 日曜日 13:30～15:30
回数	3回	3回	9回
参加者	10人	延べ38人	延べ181人
合計			229人

■英文小説を読んで英語を学ぼう！：全6回／上級以上（TOEIC700点以上）

講師	マーカス・スプリンガー		
内容	英語の短編を読み、アメリカ人講師と英語で話し合います。		
時間	19:00～20:00		
第1期	5月13日～8月5日（第2・4水曜日）	10人	受講者 合計30人
第2期	10月7日～12月16日（第1・3水曜日）	10人	
第3期	1月6日～3月16日（第1・3水曜日）	10人	

■テレビ番組から学ぶ「ブラジル文化とポルトガル語講座」全6回

講師	豊永ローザ (TV Record International)	
内容	日本では放送されていないブラジルのテレビ番組を見ながら、現在のブラジル文化とポルトガル語を学ぶ。(全6回) 第1回7月18(土) 「ブラジルのニュースと日本ブラジル外交関係樹立120周年について」 第2回8月8(土) 「ブラジルのスポーツ」 第3回8月29(土) 「子どもたちの新世代について考えよう」 第4回9月12(土) 「ブラジルで高齢者の生活を知ってみよう」 第5回9月26(土) 「ブラジルの結婚はどんな感じ？」 第6回10月3(土) 「ブラジルのエキゾチックなフルーツ・フルーツにまつわる神話と真実を知って試飲してみよう」	
日時	7月18日～10月3日 10:00～11:30 土曜日	受講者 合計7人
受講者	7人	

■英語で学ぶ「海外で役立つ、自己表現力の高め方」: 全2回

講師	Victoria Te You Moore		
内容	アメリカ人心理学者による即興劇に基づいたワークショップ		
日時	5月10日(日) 10:00～17:00	7人	受講者 合計21人
受講者	5月24日(日) 10:00～17:00	14人	

③外国人支援者のためのポルトガル語講座

(市委託：外国人学習支援センター事業) (769人)

場 所 外国人学習支援センター

協力団体 Semente para o Futuro (将来のためのたね)

基礎～初級レベルのポルトガル語会話とブラジル文化を学ぶ

	日程	参加者
1期	5月12日～7月21日(11回) 19:00～20:30 火曜・入門コース	173人
	5月14日～7月23日(11回) 19:00～20:30 木曜・初級コース	157人
2期	8月25日～11月7日(11回) 19:00～20:30 火曜・入門コース	88人
	8月27日～11月5日(11回) 19:00～20:30 木曜・初級コース	124人
3期	12月15日～3月1日(11回) 19:00～20:30 火曜・入門コース	109人
	12月10日～3月3日(11回) 19:00～20:30 木曜・初級コース	118人
合計		769人

3. 国際交流・理解のためのイベント（自主事業） 参加者数：延べ 959 人

① ウェルカム・イベント（54 人）

日 時 4月24日(日)10:00～16:00

場 所 クリエイト浜松クッキングルーム、多文化共生センター、

内 容 【午前】多言語 de 世界のクッキング体験～韓国語と英語で韓国料理～

講師：ユン ジ ヒョン（韓国系アメリカ人）

【午後】元青年海外協力隊員によるボツワナ紹介

講師：吉田 裕（JICA 浜松市デスク）

参加者 54 人

② 親子で English（140 人）

日本人・フィリピン人の3歳から6歳までの子ども連れの親子が歌やゲームを通して楽しく英語に親しみながら参加者どうしの交流も行った。

日 時	5月31日	6月14日	7月26日	9月13日	10月25日	11月29日
	日曜日 10:00～12:00					
場 所	多文化共生センター					
講 師	Filipinos English Teachers in Japan (FETJ)					
参加者	9組 22人	6組 15人	15組 34人	10組 23人	8組 18人	12組 28人
	合計					60組 140人

③ 多言語 de 世界のクッキング体験（218 人）

英語やその他の言語にふれながら、浜松在住外国人の講師からその国の家庭料理を学び、交流した。

共 催 フレクティブ

会 場 クリエイト浜松クッキングルーム

日時	内容	参加者
4月26日(日) 10:00～12:30	韓国語と英語で韓国料理	32人
6月28日(日) 10:00～12:30	英語でジャマイカ料理	36人
7月12日(日) 10:00～12:30	英語とネパール語でネパール料理	28人
8月22日(土) 10:00～12:30	英語とマレー語でマレーシア料理	23人
9月12日(土) 10:00～12:30	ロシア語と英語でキルギス料理	19人
11月29日(日) 10:00～12:30	英語とフランス語でチュニジア料理	21人
12月13日(日) 10:00～12:30	英語でアメリカ料理	28人
3月12日(土) 10:00～12:30	インドネシア語と日本語でインドネシア料理	31人
	合計	218人

④第5回ポルトガル語スピーチコンテスト（93 人）

日 時 11月1日(日) 13:00~18:00
会 場 多文化共生センター
テーマ 日本・ブラジル外交関係樹立 120 周年
出場者 第1部門：(18歳以上のラテン系の言語を母語としない方) 14人
第2部門：(15歳以上の母語がポルトガル語の方) 11人
第3部門：(8歳から14歳の母語がポルトガル語の方) 40人
参加者 93人
共 催 在浜松ブラジル総領事館

⑤ブラジルの格闘技カポエイラ&先住民のサンバショー (89人)

日 時 10月18日(日) 15:00~17:00
場 所 クリエイト浜松ふれあい広場 (1階)
内 容 日本とブラジル外交関係樹立 120周年記念イベントとしてブラジルの無形文化遺産でもある大人気のカポエイラとブラジルの先住民(インディオ)のサンバを紹介します。
・日本とブラジル外交関係樹立 120周年について
在浜松ブラジル総領事館 総領事
・カポエイラ・サルバドールの魅力について
ツニブラ トラベル ジャパン (株)
・カポエイラショー /先住民のサンバ
ナゴアス・カポエイラ・ジャパン
参加者 89人
主催 在浜松ブラジル総領事館
ツニブラトラベルジャパン (株)
クリエート浜松イベント事業実行委員会
公益財団法人浜松国際交流協会 (H I C E)

⑥ブラジルのスポーツダンス・カポエイラ体験講座 (24人)

日 時 11月6日、12月11日(土) 14:00~16:00 12月13日(土) 14:30~16:30
場 所 クリエイト浜松 5階 スタジオ
内 容 ブラジル文化と交流の中で楽しめるカポエイラダンス体験。(全5回)
講 師 ナゴアス・カポエイラ・ジャパン
参加者 24人
共 催 浜松市中部協働センター

⑦MEET & GREET (63人)

日 時 8月2日(日)13:30~16:30
場 所 多文化共生センター
内 容 各国からのALTが、それぞれの国の紹介(トリニダードトバゴ、ジャマイカ、ニュー

ジーランド、ブラジルなど)、ジャマイカの歌などのパフォーマンス、キッズコーナー等

講師 浜松市 ALT グループ

参加者 63 人

共催 浜松市 ALT グループ

⑧ Brett 先生と英語で漢字国語大会 (28 人)

日時 8 月 22 日 (土) 10:00~11:30

会場 多文化共生センター

内容 漢字検定 1 級を持つアメリカ人の講師から漢字の面白さについて学ぶ

講師 Brett・メイヤー

参加者 28 人

⑨ 私たちが見た Bangladesh を語る会 (48 人)

日時 1 月 10 日 (日) 13:30~15:30

会場 多文化共生センター

内容 Bangladesh が親日であることなどを伝えたいという Bangladesh に滞在経験がある日本人や在浜松 Bangladesh 人からの発案による企画。Bangladesh の社会・文化等について語ってもらった。

講師 安藤裕二 (ジェトロ浜松)、田中志歩 (静岡文化芸術大学)、ウーシャ・ランジャン (英会話教室主催)

参加者 48 人

⑩ 報道では伝わらないシリア難民の真実 (170 人)

日時 1 月 23 日 (土) 14:00~16:00

会場 多文化共生センター

内容 戦場ジャーナリスト・久保田弘信氏による写真展と平行して、久保田氏による講演会を実施。アフガニスタンやシリアの内線の様子を語ってもらった。

講師 久保田弘信 (フォトジャーナリスト)

参加者 170 人

共催 浜松市中部協働センター

⑪ 地域おこしは地球おこし (32 人)

日時 3 月 6 日 (日) 13:30~15:30

会場 多文化共生センター

内容 フィリピンでの青年海外協力隊での活動をどのように浜松山里いきいき応援隊に生かしたのか、また、日本一に輝いた天竜茶の試飲とそのパッケージデザインを行った文芸大学の学生の発表と学生との協働についても話した。

講師 土田哲也（元青年海外協力隊フィリピン、現浜松山里いきいき応援隊）

参加者 32人

共催 浜松市中部協働センター

4. 担い手の育成：ボランティア活動支援事業（自主事業） 参加者数：延べ1,583人

① HICE ボランティアバンクの運営（1423人）

通訳・翻訳、日本語教育、ホームステイ、イベント、出前講師に関する市民ボランティアの活動を推進した。

＜ボランティアバンク登録人数＞ 6区分

出前講師ボランティア	133人
通訳・翻訳ボランティア	304人
日本語教師ボランティア	289人
ホームステイボランティア	182人
情報提供ボランティア	156人
イベントボランティア	359人

合計： 延べ1423人

②ホームステイ・コーディネート（116人）

■静岡大学グローバル企画推進室「さくらサイエンスプラン」をコーディネート

依頼者 静岡大学グローバル企画推進室

期間 7月24日～7月26日（2泊3日）

参加者 10人 ホスト 10家庭

■日本語学校生徒の日本の家庭へのホームステイをコーディネート

依頼者 静岡理工科大学 浜松日本語学院

期間 9月12日（土）～9月13日（日）（1泊2日）

参加者 留学生 10人 ホスト 10家庭

■静岡大学留学生の日本の家庭へのホームステイをコーディネート

依頼者 静岡大学 国際交流センター

期間 11月13日（金）～11月15日（日）（2泊3日）

参加者 留学生 9人 ホスト 7家庭

■JICE タイ高校生コーディネート

依頼者 一般財団法人 日本国際協力センター（JICE）中部支所

期間 12月18日～12月20日（2泊3日）

参加者 25人 ホスト 12家庭

■静岡大学留学生年末年始ホームステイをコーディネート

依頼者 静岡大学インドからの留学生2名

期間 12月31日～1月2日までの間で2泊3日程度

参加者 2人 ホスト 2家庭

■静岡大学グローバル企画推進室「さくらサイエンスプラン」をコーディネート

依頼者 静岡大学グローバル企画推進室

期 間 2月19日～2月21日(2泊3日)

参加者 10人 ホスト 9家庭

③ボランティア研修会「笑顔で異文化コミュニケーション」(44人)

日 時 6月28日(日) 13:30～16:30

会 場 多文化共生センター

内 容 論理的な話し方や英語で外国人と建設的な話し合いをする方法。スカイプでケニアとつ
なげ、異文化コミュニケーションについてのディスカッションを行った。

講 師 戸倉由紀枝(英語・ヘルパーズ代表)

参加者 44人

共 催 静岡県国際交流協会

5. 担い手の支援：国際交流活動支援事業 参加者数：延べ11,107人50件

①多文化共生・国際交流推進事業費補助金の交付(29件)

浜松市内で活動する多文化共生・国際交流関係団体を支援するため、多文化共生・国際交流推進事業費補助金を交付した。(円)

No.	主催団体	対象事業	交付確定額
1	そらの会	そらの会 放課後学習支援事業	200,000
2	龍の会	外国籍児童生徒への日本語教育及び学習補助支援	244,000
3	KSC 子どもサポーターズ クラブ	外国にルーツを持つ子どもたちへの学習支援	400,000
4	特定非営利活動法人AR ACE	アラッセ 希望教室	401,000
5	W I S H	外国籍児童就学促進支援事業	140,000
6	ミジョナリオ	さなるdeにほんご	100,000
7	NPO法人AIPEAC E	可能性を広げるための日本語学習	396,000
8	NPO法人 フィリピンナガイサ	バヤニハン日本語教室	85,000

9	中国文化交流会	中国人のための日本語勉強会	170,000
10	YACHAY	スペイン語読み書き教室 YACHAY	412,000
11	細江町国際交流協会	浜松市姉妹都市キャマス市の中学生受入れ	80,000
12	ボーイスカウト浜松連合協議会	23WSJ ホームステイ浜松	276,000
13	一般社団法人グローバル人財サポート浜松	日中青少年グローバル人財育成交流事業	150,000
14	浜松市中学野球国際親善育成会	第25回国際親善中学野球交歓試合 台湾大会	140,000
15	NPO法人浜松外国人子ども教育支援協会	未来を担う「国際人」を育てよう！	209,000
16	NPO法人 浜松日中文化交流会	日中文化の集い（国際交流）	100,000
17	イニセアフリカ	AFRICAN LIVE！ Vol.3	150,000
18	CORE S	第4回グローバルストリートフェスタ	200,000
19	浜北国際交流協会	浜北国際フェア	25,000
20	浜松ミュージック・アート少年団	浜松ワールドミュージックフェスティバル2016 こどものための音楽会	300,000
21	浜松市浜北日中友好協会	日中友好交流事業	204,000
22	NPO法人浜松外国人子ども教育支援協会	続・未来を担う「国際人」を育てよう！	106,000
23	細江町国際交流協会	在住外国人との料理交流フェア	41,000
24	多文化共生社会をめざす会	多文化子ども学習支援事業	52,000
25	NPO法人 浜松日中文化交流会	中国春節の集い（国際交流）	130,000
26	在日キルギス人協会	シルクロードの要衝の国「キルギス」へようこそ！	209,000
27	浜松学院大学	浜松学院大学インターナショナルスクールプロジェクト	404,000
28	NPO法人 浜松日本語・日本文化研究会	外国人住民に対する日本語学習支援「にほんご木曜教室」	300,000

29	NPO法人 浜松日本語・日本文化研 究会	外国人住民に対する日本語学習支援「にほんご 日曜教室」	500,000
合計			6,124,000

②天竜地域事業（727人）

■日本語教室（市委託：外国人学習支援センター事業）

期 間 平成27年4月12日～平成28年3月27日

日曜日 10:00～11:30 全42回

場 所 二俣協働センター（天竜区二俣町）

内 容 会話クラス、日本語能力試験受験クラス、児童日本語クラス

受講者 登録者数 延べ15人 参加者数 延べ221人

国籍 インドネシア、ブラジル、タイ、ベトナム、フィリピン、ペルー

■英会話教室（自主事業）

場 所 二俣協働センター（天竜区二俣町） 光明ふれあいセンター（天竜区山東）

各コース20回	初級 (火) 19:30～21:00	中級 (木) 19:30～21:00	上級 (木) 19:30～21:00
前期4月14日～9月17日	16人		
後期10月20日～3月24日	16人		
合計			32人

■イングリッシュ・ブック・ディスカッション（自主事業）

天竜区内在住のアメリカ人英語講師により、英文小説を読み、英語でストーリーについてディスカッションすることで、英語のスキルアップを目指した教室を開催。中級（TOEIC450点以上）。

場 所 光明ふれあいセンター（天竜区山東）

各コース6回	前期(12回) 4月11日～9月26日	後期(12回) 10月17日～3月26日
	7人	5人
合計 12人		

■英語でカナダのスイーツを作ろう：英語でクッキング（自主事業）

日 時 11月22日（日）14:00～16:00

場 所 二俣協働センター

内 容 カナダ人の英語教師を講師に、大人を対象にして、英語で料理教室を開催。カナダのプディングとアップルサイダーをつくった。

参加者 22人

■光明ふれあいまつり参加（自主事業）

日時 2月21日（日）9：00～15：30 場所 光明ふれあいセンター

日時 3月6日（日）9：00～15：00 場所 二俣協働センター

内容 世界を知ってもらうためのクイズと HICE 活動紹介

参加者 各 220 人程度

③セミナールームの活用（市委託：多文化共生センター事業）（10,363人）

浜松市多文化共生センターのセミナールームをオープンルームとして一般に公開するとともに講座・セミナー等の事業活動に利用した。

年間利用者数 10,363人

④多文化共生・国際交流活動支援事業（市委託：多文化共生センター事業）

（17人21件）

■多文化共生・国際交流・国際協力の活動団体とのネットワーク化事業

「国際交流・多文化共生情報交換会」

日時 5月30日（土）14：00～16：00

場所 多文化共生センター

内容 ①多文化共生・国際交流推進事業費補助金の説明

②「はままつ多文化共生 MONTH 事業」の説明

③各団体の活動紹介

参加者 10団体17人

■多文化共生活動コーディネート（22件）

1) ブラジルの格闘技カポエイラを普及するグループ、ナゴアス・カポエイラ・ジャパンの活動支援。カポエイラ体験教室を開催。（5回）

2) フィリピン人の英語の先生のグループ（Filipinos English Teachers in Japan:FETJ）の活動を支援

日本人・フィリピン人の3歳から7歳までの子ども連れの親子を対象に、歌やゲームを通して楽しく英語に親しみながら参加者どうしの交流を行う会「親子でEnglish」の開催支援。（6回）

3) 国際理解教育活動を進める市民グループ（はままつ国際理解教育ネット）の活動を支援
担い手となる人材育成のための「国際理解教育ファシリテーター養成講座」の開催支援。

（4回）

4) フィリピン・ナガイサの活動支援

在東京フィリピン大使館出張領事サービス（5月16日、17日）の開催支援。（1回）

5) 在日キルギス人協会の活動支援

浜松、東京、名古屋、大阪など日本に暮らすキルギス人のグループがキルギス文化紹介の企画をグローバルフェア内で行うことを支援。（1回）

6) 浜松家族の会（ハムカ）の活動支援

インドネシア人、バングラデシュ人、パキスタン人などを中心とする浜松在住のイスラム教徒のグループが、ムスリム文化を含めた各国文化をグローバルフェア内で紹介する企画を支援。（1回）

6) 外国にルーツを持つ若者グループ（COLORS）活動支援

浜松市内の定時制高校（浜名高校）への出前授業などの活動を支援。（4回）

6. 情報提供事業 **提供者数：延べ 6,706 人**（情報カウンターでの提供数のみ計上）

① 機関紙 HICE NEWS の発行（自主事業）

当協会の活動内容や講座等を掲載。日本語、ポルトガル語、英語の三ヶ国語で発行し、HICE 会員や外国人児童生徒の保護者、外国人学校、協働センター等の公共機関に配布・設置した。

発行部数：日本語版 2500 部 ポルトガル語版 2100 部 英語 800 部 合計 5,500 部

発行回数：毎月 1 日発行 年 11 回

② ホームページの運営（自主事業）

ホームページアクセス合計数 292,467 件

HICE ホームページ（日本語、ポルトガル語、英語）

浜松市多文化共生センターホームページ（日本語、ポルトガル語、英語、中国語）

浜松市外国人学習支援センターホームページ（日本語、ポルトガル語、英語、中国語）

④ Facebook の運用（自主事業）

「いいね」合計数 2,333 件

⑤ HICE info メールによる情報配信（自主事業）

会員・ボランティア等に情報を配信。年間 40 回配信。

配信先 1,925 人

⑤ CIR NEWS の配信（自主事業）

国際交流員（CIR）による英語・日本語併記の文化紹介メールマガジンを毎月配信

配信先 721 人

⑥ 情報カウンターの設置（市委託：多文化共生センター事業）（6,706人）

情報カウンターにボランティアを配置し、外国人市民・日本人市民に対し、必要な情報を提供。

延べ提供数 外国人 2,796人、日本人 3,910人 合計 6,706人

ボランティア配置 延べ1,048人